# 謝　辞

柔らかな日差しが暖かさを増し、春の訪れを感じる季節となりました。この度は、私達卒業生のために、様々な感染症対策を踏まえて式典を挙行して頂き、誠にありがとうございます。また、ご多用の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、江馬学長先生をはじめ教職員の皆様、並びに関係者の皆様に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

４年前、新しく始まる生活に、期待や不安を抱きながら入学した日のことが昨日のことのように思い出されます。本学では、基礎的な勉強をはじめ、教職に必要な専門的な知識や技能を学びました。中でも、教育実習は、私が教職を志す上で特別な体験になりました。

教育実習を通して、教育現場の実態を身をもって体験するとともに、大学の講義だけでは決して学ぶことのできない、現場だからこその気づきや自身の課題を多く得ることができました。そして、なによりも教育実習で自身の中で教師としての「やりがい」を見出すことができたことが一番大きかったと感じます。また、実習を通して教師は簡単な仕事ではないということを改めて感じました。授業のための教材研究や資料準備はもちろん、並行してクラス経営や生徒指導もしなければならず、正直大変なことのほうが多いと思います。しかし、子ども達が授業を受けて、「分かりやすかった」「楽しかった」と言ってくれたり、実習終わりには、「別れるのが悲しい」と涙を流してくれたりしました。自身の教師としての働きかけが、子ども達の学びや成長に繋がり、それが子ども達の笑顔や姿として現れたとき、今までの苦労を打ち消し、忘れさせてくれるほどの喜びと感動があり、そこに、なによりも教師としての「やりがい」を感じました。

また、この大学生活を通して改めて実感したことがあります。それは感謝の気持ちの尊さです。大学生活をもっとも謳歌できるはずの２年次、３年次に、コロナウィルス蔓延によって、仲間と顔を合わせ切磋琢磨しあう楽しさを奪われ、部活や行事などにも制限がかかりました。しかし、教職員の皆様方の迅速な措置で、リモート授業への対応や学内での感染防対策などをしていただき、無事修学することができました。私たちが今こうして卒業ができますのも、たくさんの人の支えがあったからということに改めて気づかされました。これからも、自分の力だけでは充実した人生を送ることは出来ません。感謝の念を持ち「ありがとう」と口に出す。このような気持ちを持ち続けたいと思います。

私は岐阜県の教員採用試験に合格しましたが、もう少し教育についての課題を深めたいと思い、４月から大学院に進学します。私を含め卒業生たちはそれぞれの道を歩むことになります。中部学院大学で学び、過ごした日々に誇りと自信を持ち、ここで学び得た知識と経験を活かし、次世代のリーダーとして社会で活躍できるように精進して参ります。

素晴らしい学びの場となりました本学への御礼と私達の卒業を記念し、短期大学部卒業生一同と共に、関キャンパスにクリスタルホール用テーブル・椅子を贈呈致します。

最後にはなりますが、今日まで未熟な私達をご指導くださった先生方、学生生活を支えてくださった職員の皆様、私達のことを温かく見守ってくれた家族や地域の皆様、全ての皆様に心より御礼申し上げます。そして皆様のご健康と、中部学院大学のさらなる発展を願い、謝辞といたします。

2023 年 3 月 18 日

卒業生代表

教育学部子ども教育学科

氷室和亮